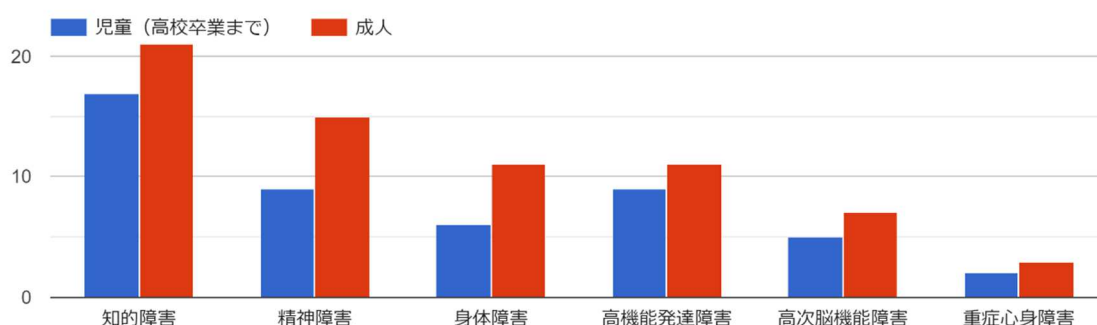


日中一時支援プロジェクト 事業所実態調査集約

回答数 27 件(10月16日時点)

主な対象者

主な対象者(複数回答あり)



日中一時支援を始めた理由

* 児童の居場所

放課後等デイサービスでの支給量が不足している児童の支援のため
瀬田エリアで発達障がい児の支援をするため。

障害者の方からの要望があったので

保護者の就労・休息の一時預かりの時間の中で、社会適応に必要な訓練の時間を設けるため。

放課後や長期休みの障害児の受け皿が無かったため

* 成人の居場所

- ・ 18 歳以上の方の余暇支援の場が少ないとの情報が多かったため
- ・ 当時、成人の方の作業所後の時間帯に仲間と共に過ごす場所がなかったから。
- ・ 保護者の就労・休息の一時預かりの時間の中で、社会適応に必要な訓練の時間を設けるため。
- ・ 利用者様のニーズに少しでも対応できる環境を提供するため
- ・ 放課後デイ利用者の、高校卒業後の居場所の為
- ・ 共働き世帯の利用者が増えてきて、保護者からもう少し長い時間を見てほしいと要望があった為
- ・ 同法人が運営する放課後等デイサービスの利用児童が卒業する際、その児童と保護者から継続してサービスを利用したい旨の要望があったから。

作業所等で 1 日頑張った後、好きなことをしてホッとできる居場所をつくり、家に帰ってからの安定につながる居場所を提供したい。

* 障害のかある方の居場所

- ・土曜利用の希望者が多かったため
- ・地域利用者のニーズにこたえるため
- ・利用者・家族のレスパイトに係る事業へのニーズが高かったことから
- ・利用者家族の就労支援及び日常的な介護からの一時的な休息を図るため、利用者へ日中における活動の場を提供し、見守り及び創作的活動を充実される。
- ・障害があってもなくても、フラットな関係での交流や会話が出来ればいいと思った。

そんな場所があればとの理由。

- ・利用者様の選択肢の一つとして、居宅介護及び重度訪問介護とは別に利用できるように。

当法人の利用者が対象者である事を知ったから。

- ・「好きなこと得意なことを仕事にする」を取り組むにあたって、始めやすかったため先に始めていた Yafa~の事業を通して、平日の夕方や休日の余暇支援の活動や居場所に需要があることが分かったため。

- ・障がいある人たちの軽度運動支援と居場所を作りたかったため
- ・精神障害のある方の過ごせる居場所を作りたいと考え、当事者の方の社会参加の一助になればと思い、実施しました。
- ・普段会わない人との交流の機会
- ・他の利用者同士の繋がりを大切にしたい。
- ・身体介護等の時間が足りない方で利用したいと希望があった。

過ぎしの内容

- ・武道や工作、音楽療法、体操、手話、ダンス、外出などの活動を取り入れている。
 - ・屋内等でのレクリエーション活動等、ゴミ拾い、散歩など
 - ・学習支援・視覚トレーニング・言語訓練・個別カウンセリング・SST・余暇支援
- 1：1の個別支援（60分）後はゆっくりと一人で過ごしたり、他の利用者さんやスタッフとボードゲームなどをして自由に過ごされています。土曜日・長期休みはお昼を挟んで長時間の利用も可能です。
- ・余暇活動、簡単な調理(お料理・お菓子作り)、製作、・体幹を整える体操など
 - ・1回の利用で、スタッフと1対1の個別活動の時間を設け、教科学習やSSTに取り組んだり、相談をうかがったりしています。それ以外の時間は、ボードゲーム、カードゲーム、創作活動、外遊びなど、柔軟に対応しています。月に1度集団SSTイベントを行っております。
 - ・余暇活動、日常生活指導、社会生活支援（学習補助）、課外活動（ドライブ、観光）、見守り等
 - ・工作、カード及びボードゲーム、タブレットでの音楽鑑賞、DVD鑑賞、近隣散歩等
 - ・活動内容を余暇活動とし、クッキングや外食・外出などの他、アトリエ（美術活動）なども利用者個々に合わせた活動をしています。また、家以外の居場所として、ゲームで遊ぶこともあります。カラオケ、タブレット、外出（土曜日）

公園・クッキング・工作

散歩や音楽鑑賞、ストレッチなど

- ・基本的に室内で実施できることで創作やDVD鑑賞等、個人に合った活動を準備します。

個々のニーズに合わせた個別支援

・イベントは月に4回（食・ものづくり、ボッチャ、カラオケ）は、参加希望者と一緒に過ごします。それ以外の日は、一人で過ごされる方、スタッフと過ごす方、皆の希望で麻雀やゲーム・散歩等は、その時々に参加したい方々で参加されます。

・創作活動やレクリエーション及び近隣の施設で体を使った活動

・広い畑で自分の菜園を作ったり、焼菓子やパンを作ったり、200種類以上のボードゲームやカードゲームで遊んだりすることができます。豊富な教材で学習支援も充実しています。

・余暇支援（散歩、ドライブ、調理、季節行事等）

・放課後の自由な時間を友達の過ごす。おやつ作りや公園での野外活動、イベントや季節を感じるお出かけ等

・（平日）特定の活動を設定しておらず、“喫茶店スタイル”ですごしている。適宜必要な支援を行う。（土）メンバー固定、活動を設定している。

平日→室内で音楽を聴いたり、トランプなどゲーム等。土曜日→外出や創作活動など活動を設定しています。

・有酸素運動、軽度な筋トレ補助、コミュニケーション

・来ていただいている方それぞれが自由に過ごして頂いている。

例、テレビを見る・他の方とお喋りする・本などを読む・テレビゲームをする・カフェスペースでコーヒーや軽食を食べる等。

・設定活動(調理・ボウリング・レクリエーション・ミュージックケア・アート・コンサート・フラダンスなど)

・外出(公共施設等見学、利用)、・創作活動(工作、絵画、工芸体験等)、・調理実習(昼食、間食)、・社会貢献活動体験(清掃、ゴミ拾い)、・学習

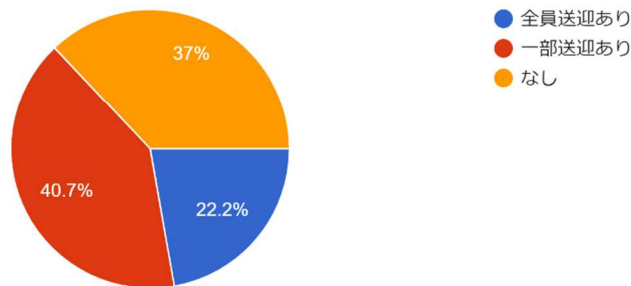
・全員でおやつを選び休憩→室内希望者：トランプ・卓球・ダーツ・バトミントン・パターゴルフ・折り紙・塗り絵・パズル・トランプ・ゲーム等。外出希望者：公園等への散歩（季節のよりお花見等）・買い物やウインドーショッピング等。バスケット・サッカー・キャッチボール等。

・以前開催していたクッキングをコロナ感染の状況の応じて再開する。その中で調理師免許保持のヘルパーによる食育を取り入れ予定。

・見守り

車両送迎の有無

車両送迎の有無
27件の回答



大津市の日中一時支援事業の良いところをご記入ください。

* 21 件回答

①対象者

- ・成人の軽度の方、発達障害の方が使いやすい。18歳以降の支援の種類が多い。

送迎加算が付くところ

・他市では、不登校の方は学校の時間帯はサービス利用不可ですが、大津市では適応指導教室が使えない方（支援級在籍などの理由で利用不可の方）に利用していただいています。また、時間区分が4時間未満からですので、ゆったりと利用いただいています。他市は時間区分の幅が狭いため、短時間の利用にとどまっています。また、成人期の発達障害の方への利用許可を柔軟に対応いただいています。

②過ごし

- ・ニーズに合わせて臨機応変な対応が可能
- ・ゆっくりとご本人のペースで過ごしたい方にとってはよい事業だと思います。
- ・利用がしやすいところ。・団体行動ではなく、各自に合わせた過ごしができるところ
- ・枠組みがなく自由なところ
- ・利用者の過ごし方に対する柔軟な理解。
- ・共働き世帯の増加に合わせて、サービス提供者が要望に応えやすいところ
- ・外出での支援を積極的に推奨しているところ。
- ・学生の間は、学校へ行けばお友達に出会っていましたが、卒業後は放課後等デイサービスの利用もできなくなるため、過ごし場の場が少なくなります。日中一時支援を利用することで、友達と過ごす場が出来る。

③制度

- ・他の市町の制度や事業所の事が良くわかりませんが、放課後デイなどと比較して基準がある意味ゆるいことから、人員確保が難しい現状では、報酬は決して高くないものの、運営しやすい。

・事業を始めやすい、いい意味でハードルが低いところと、事業所が増えてきたことで、活動内容が様々で、多様なニーズにこたえることができますと思います。

・敷居が低く、参入しやすい。利用しやすく、いろいろなニーズを抱えた方が利用できる。

・支援に必要な資格などのハードルが高くない所。

④その他

・障害福祉課から、その都度 いろいろな情報をいただけること

・何かあれば、障害福祉課が丁寧に教えてもらえる。

大津市で日中一時支援を運営するにあたり課題があればご記入ください。なお、記入に当

たっては①～④のことに特にご記入ください。①活動、②人材確保や育成、③個別対

応が必要な人の支援、④送迎支援

*回答 23 件

①活動

・キャンセルが多い 1 割～ 2 割

・無料で行ける外出先が少ない。様々なタイプの利用者が同時に参加する為、全員が楽しめる活動の設定が難しい。

・活動においては、当事業所として現状維持ができればとおもっている。

・基本的には屋内での活動に限定されている。障がい者の人たちが地域において生活するための事業のはずなのだが、屋内に止まることが障がい者の地域生活ではないはず。屋内の拠点はありながらも、地域の人たちや社会資源を活用しながら、広く外活動も認められる制度設計にしてほしい。

・人材の確保の難しさにより、活動の日数や幅が広げられない。 本当は、様々な活動がしたいのですが・・・。（どうしても法人内で、人員基準のある事業所優先になる。）

また、そうした事から重度の方や行動障害の方など、受け入れられる方が限られてくることもある。

・活動面において、外出を積極的に推奨する中で、施設の利用や体験等に際しての費用負担の兼ね合い。

・利用者同士で、カラオケなどに行きたい希望があるが送迎を含めて、利用を希望されています。カラオケは、グループ支援の利用になるとのことですが、送迎を個別にしなければならず現実的に難しい。

②人材育成

・人材育成に関して、サービス内容が施設毎で異なるため、マニュアルや専門性がまとまらないことが課題なのではないかと思えます。

・対応する職員は正規職員ではなく嘱託職員が主に行っているため、様々な障害特性に対応するために知識や経験が必要となってくるが、その研修等に参加する機会や時間がなかなか持てていない現状がある。

・主にパートや学生中心になり、学生も期限があるので、育ったら卒業。これの繰り返し。

研修計画や誰にお願いしたらよいのか。

・人材確保するにあたり、報酬単価が低いため、給料が低くなってしまいうため人材確保ができない現状がある。

- ・利用者が身体障害者がメインのため、介助に人員確保が必要である。
- ・異性介助をしないため、女性職員が主婦であるため休日時の開所時に女性利用者の利用日が限定される。
- ・報酬単価が低いいため、単独の施設では常勤職員の配置が困難。パートアルバイトで、この仕事が好きと感じ、続けたいと思っても、叶えてあげることが困難。結果、他の施設に移られる。
- ・報酬が少ない為、人員の確保が難しい。人員確保が出来ない為、個別対応の必要な方の受け入れが難しい。
- ・収益面の観点から新しい人材確保がオープンで難しい。専門職の配置が難しい。支援員として従事していただいている方への研修や学びの機会が少ない。

③個別対応が必要な人の支援

- ・月1回～2回程度、職員を加配しながら、時間を制限したりしながら支援をする事になっている。また他の方に、この方に合わせていく事になり、他の方に満足いく支援が出来ないこともある。
- ・報酬単価が低く、個別支援が必要な人に対応できない。また、個別支援に対応できるスタッフも育成できない。
- ・細かな支援が必要な利用者対応時に、別の利用者より「特別扱い」をしているように思われたことがある。また、1日に個別対応が複数人の場合、スタッフの人員が困難。

個別対応が必要な人の支援として、療育手帳が重度（A）であったとしても受給者証の区分3であると重度加算とならないため、スタッフが不足となってしまうため、重度加算を区分で決めるのではなく、療育手帳等の等級で決めていただきたい。

- ・居場所づくりを意識すると個別対応が必要な方の場合、その方への集中的な関わりを求められるため、他の方への関りが薄くなる。関係性などから対応できるスタッフが少ない場合はさらに特性を理解した関わりが困難になる。
- ・預かりなのでずっと1：1対応が必要な人が来ると質が落ちる。
- ・現状では医療対応が必要な方の利用はないが、個別対応が必要な状況によっては、専門性の対応等において体制の見直しが迫られる。
- ・勤務時間外での支援の時に申請できないか？

④送迎

- ・こちらの事業所では送迎を行っていないため、保護者の送迎の援助が必要な方は利用がしづらい状態です。
- ・医療ケアを必要とする利用者も対応しているが、通所利用者の送迎に看護師の添乗が必要な場合もあり、医ケアが必要な日中一時利用者の対応が難しい日があるのが現状。医ケアの方の日中一時事業の内容の拡充のため、また、送迎の実施のため、看護職員配置加算等による看護師の確保が必要と感じている。
- ・送迎の必要はあるが当事業所では負担が大きい。
- ・送迎支援は、去年の最初はしていたが、やめた。送迎できる人材が少ない。（他人を乗せる事に不安を抱く、職員も少なからずいる） 反面、自主通所を促す事で、自立度も上がっているように思う。 本人、保護者は大変かもしれないが、ここはできる様にフォローしていきたい。
- ・新移動支援に変わったことによる利用希望の場合にご本人が利用に関して前向きではなく、ご家族都

合での利用になっているという点は、他のご利用者様にとってマイナス面が多く、運営するにあたってはリスクとなる。

特にございません。

- ・学校や作業所への送迎に加算がつかないのは、納得できない。放デイと同じような設計にしてほしい。
- ・個別対応が必要な行動障害の方などを多く受けると、人件費とのバランスが悪くお受けするのが難しくなる。また支援者の力量も必要になる事が多く、有資格者（行動援護）等が必要になる。
- ・送迎は車両の確保、ドライバーの確保、送迎時間が同じなど問題が多い為、現状以上は難しくなってきた。
- ・希望者全員にと思うが、遠い場合はできない。また交通渋滞時は時間がかかる。
- ・送迎をすると支援の質が落ちる。
- ・遠方だと、他の利用者さんを乗せており、送迎に時間がかかりすぎることがある。また、渋滞にまきこまれると時間がかかる。予定時間より遅れる場合はご家族から連絡がほしいと言われるが、運転中に連絡するために都度停車して連絡をすると余計に時間がかかり遅れてしまう。

○報酬等に関して

・学齢期の利用者では、集団が苦手なために個別対応を求めて、こちらの日中一時支援を利用している方がおられます。利用料削減の議論がなされていますが、個別に活動するためには人材確保が必要であり、削減が行われれば、人材確保が困難になります。現在は、4時間未満 4000 円の利用区分であり、職員が4時間近く個別に付き添うと、人件費と同等となり利益が見込まれません。他のサービスを行わず日中一時支援単独で運営・人材確保を行うためには、利用料の現況維持が課題であると考えます。加えて、保護者相談は別途自費請求をしていることや、関係機関との連携・会議参加に加算はなく、報告先がないことで、日中一時支援利用の利用者の困り感が地域へ伝わらないことが課題であると思います。

- ・運営するために、加算をあげていただきたいです

大津市で日中一時支援を運営するにあたり工夫していることがあればご記入ください。なお、

記入に当たっては①～④のことに特にご記入ください。①活動、②人材確保や育成、

③個別対応が必要な人の支援、④送迎支援

*回答 24 件

①活動

- ・個別支援で1：1になる時間をつくること
- ・調理や工作など施設内で楽しめる活動を考えている。
- ・活動内容に独自性を持ち、柔軟に対応することで、保護者利用者からの信頼を得ています。また、学齢期から成人期まで、長期間サービスを利用できることを活かして、関係機関との連携を強化し、活動内容に活かしています。

- ・利用者の希望やニーズに合わせている。
- ・意図的に、人数を制限したり、プログラムを調整するほか、活動日を少なくし、ベテラン職員を配置し、活動の充実を図っている。
- ・図書館のように本をたくさん用意しています。家にはいたくない…人と話すのは苦手だけど、人の気配が感じられるところでゆっくりすごしたい…という方でも気兼ねなくすごしていただけるように。
- ・利用開始時間、終了時間が人によって違うので、限られたスタッフの中で個別の要件にも対応できるようにしています。
- ・日中一時支援事業を介して参加者を集め、地域のイベントや、奉仕活動などに、参加できている。
- ・活動に関しては、その活動に応じて有資格者（例えば道場なら空手の師範やクッキングなら調理師が…音楽療法は保育士など）が担当して、その日の利用者様のレベルに合わせて活動内容を決定している。

②人材確保や育成

- ・教員経験者、心理職経験者、福祉を専門的に学んだ人材を雇用することで、基礎的なサービス提供の質を維持しています。それぞれの専門職の特性を生かし、人材育成を行っています。また、障害支援に興味のある学生アルバイトを雇用し、主体的に活動内容を組んでもらったり、利用者との遊びに参加してもらっています。随時相談体制を取っています。
- ・学生の中には、教員を目指す方もいて、こうした方は意識も高く、積極的に採用育成している。過去は、送迎できる方を中心に募集してきたが、送迎は出来ないと言う人でも、採用し支援員としてのみ育成する事に転換している。
- ・どうしても報酬単価が低いので、パートアルバイトでの人材担保となり、定着しにくさがある。一方で、障がい福祉への入口になることもあり、巣立っていかれるケースもある。
- ・人材確保に関しては、有資格者をお願いしている。
- ・優秀なスタッフを正社員雇用
- ・色んな経験や資格を持つ方が支援員として関わって頂ける強みがあると思うので関わりや事業所の創意工夫を知れる「学びの場」みたいな機会があれば嬉しく感じます。
- ・滋賀大教育の学生を採用

③個別対応

- ・保護者に施設の強みと弱みを理解してもらおう。
- ・ヘルプで対応しているのが現状です。
- ・基本的に一律全員に個別対応の時間を設けているため、特別に対応しているようには見えないのが利点です。また、必要に応じて、区切られたスペースを使用しており、刺激を減らすことも可能です。
- ・看護師が在中しているので、医ケアの必要な方の受け入れを積極的に行っている。また、生活介護事業終了後となるが、医ケア児の受け入れも可能。
- ・1人1人の対応を丁寧に行うため定員を6名としてじっくりかかわらせていただいています。また、個々の課題や目標に沿っての活動を 一か月ごとにじっくり取り組めるようにしています。
- ・回数を絞ってでも、利用して頂けるように配慮し支援を行う。職員配置を多めに確保し備える。など

- ・スタッフで情報や支援内容、支援の方向性を共有する。
- ・強度行動障害の方が、ストレスなく過ごしていただくために職員配置を行っている
家族やご本人の希望を聞く。利用者同士の相性や自宅を考慮して利用日を調整している。
- ・身体障害、重症心身障害者の介助は 2 名で行う。行動障害タイプの方はその表出の大きさにもよるが支援者を交代しながら対応している。
- ・精神障害の方は「重度加算」を算定できる方はいないため、新たな加算の創設もしくは加算の算定要件の見直しが出来ればと考えます。

④送迎支援

- ・地域を限定するなどしている。
- ・送迎支援が必要なく、自ら来られる方にはお願いしているが現状はほとんど無し。
- ・家族に送迎の協力をしてもらっている。
- ・駅から近いこともあり、自分で来れる方は来ていただいています。どうしても送迎がないと来れない人を送迎しています。

○その他

- ・生活介護では支援が行きつかない所に焦点を当てている。
- ・少人数制で運営しておりますので、集団での活動が苦手な方にとっては有効な場所だと思います。
- ・経営はさておき、社会奉仕のつもりで個別支援対象の人を受け入れている。ただし、ケースはこなせない。

大津市の日中一時支援事業の今後の理想のイメージがあればご記入ください。

*回答 18 件

- ・現在の 4 時間まで 4 0 0 0 円を維持してもらいたい。勤務を 5 年以上した場合はサビ官や児童発達支援管理責任者の要件になるとありがたい。
- ・社会との関りを増やし、充実した余暇を過ごせるように支援する
- ・長時間や、個別対応が必要な方への加算があるとありがたい。
- ・各々の事業所の特徴を明確にし、サークル活動を選ぶような感覚で、適切な施設を利用いただけることが理想です。また、長期間利用していただけることを活かし、地域に根差して途切れのない支援を提供できればと思います。
- ・障害のある方が余暇を過ごしたいと思ったときに自由に利用できる施設
- ・加算が大きくなれば、一時預かり・一時見守りの枠を超えて支援することができると思います
- ・弊社が関わる方から見た今後

*放課後デイでは、知的・発達障害の方のご利用が中心

- ・放課後デイの利用者向け（障害児）の余暇活動：中高生・・・実施中
- ・放課後デイ（高校）卒業後の余暇活動：18 歳～25 歳程度の若者・・・実施中
- ・その後の壮年期の余暇活動・・・今後弊社で検討中

*という事で、年齢層での支援やその方たちの居場所の変化に対応が必要と感じています。

これという決まった形がないことで、自由な発想で活動を組み立てることができるようになってきていると思います。就労に対しての余暇という単純な位置づけに留まるのではなく、日中におもしろいことをや

ってる活動拠点として発展していくことが、多様な暮らしを支える事業になるのではないかと期待します。

- ・就労困難者やひきこもり者の利用を増やし、交流の起点となる居場所作りを行い、生活の質の向上につながる支援事業。

- ・利用者様の高齢化が進むにあたり、通所での作業所が難しくなってこられた方で、生活介護に行くほどの状況ではない方の受け入れ先となればと考えます。

- ・地域において、障がい者がどのように生活していくことが理想なのかを再考して、制度を作っていく必要があると思う。制度内だけの話でいくと、必ずしも屋内に留まることではないように思う。また、現行では、「保護者の就労支援」的な要素も大きかったり、他の制度では収入が低いので、日中一時をやることで経営の安定化を図るといった補完的な要素もあるように思う。障がい当事者が主人公になっていないケースもある。

- ・報酬単価が高くなることで、例えば給料が高くなり、人材確保もしやすくなると考えている。有資格者等の人材が確保できれば、より多くの経験を利用者様にして頂けるのではないかと。現在、当事業所が実施している療育的な日中一時支援がより一層多くの経験、濃い内容の活動ができるのではないかと考えている。

- ・重度の方の余暇支援の充実。身体的負担を考えると住まいから近いところの事業展開が望まれる。また移動支援のことを考えると、地域性を重視した事業展開を望む。

様々な障害福祉サービス事業所がある中で「日中一時支援」という事業が地域のニーズに細かく対応でき、地域に開かれたサービスかな、と感じています。

- ・仕事や生活の中で生じるストレス解消の居場所、仲間やスタッフとの憩いの時間、夢や目標を見つける場所。利用者の QOL 向上に貢献できる事業の展開

- ・事業所同士の繋がりを日中一時支援事業所は法人の枠を超えて作っていければ…と試みています。大津の日中一時支援事業所がコラボ…なんていうのは面白いかなと思います。

- ・これという決まった形がないことで、自由な発想で活動を組み立てることができるようになっていると思います。就労に対しての余暇という単純な位置づけに留まるのではなく、日中におもしろいことをやってる活動拠点として発展していくことが、多様な暮らしを支える事業になるのではないかと期待します。